

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：23803

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K01914

研究課題名(和文) 地方自治体における予算編成改革：日本における公的ガバナンスとアカウンタビリティ

研究課題名(英文) Reform in Public Governance and Accountability: Japanese cases

研究代表者

森 勇治 (Mori, Yuji)

静岡県立大学・経営情報学部・准教授

研究者番号：90295569

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：日本の公的なガバナンスとアカウンタビリティの関係について、海外においてあまり知られることがなかったが、そのリサーチギャップを埋める研究が日本の地方自治体における参加型予算編成を取り扱うUddin, Mori and Adhikari (2019)であった。さらにUddin, Mori, and Shahdat (2020)においては、公的病院におけるガバナンスとアカウンタビリティについてと特殊性を明らかにした。Pianezzi, Mori and Uddin (in print)においては自治体に取り組むスマートシティ政策のガバナンスとアカウンタビリティについて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究ではこれまで海外では日本のコンテクストも、ガバナンスとアカウンタビリティも特異なものであると知られてきたが、その関係を社会学、人類学、経済学を併用しながら、実証的に議論し、その成果を研究期間中にトップジャーナルへ3本の論文として公開できた。それぞれの論文の引用数も毎年増加している。

当該領域の英文レビュー論文においても、日本の事例が取り上げられることはなかったため、今後ギャップを埋めることに貢献することになるだろう。

研究成果の概要(英文)：Based on qualitative research (case studies), the JSPS grant research addressed how Japanese public organizations, which are in a different context from Western countries where NPM was created, accepted and resisted NPM reforms, which have not been well known foreign countries. More specifically, we have taken up at municipal budgeting reform (Participatory Budgeting; PB), governance and accountability in municipal hospitals as agents established by municipalities, and governance and accountability in smart cities where municipalities work with external companies. These papers are published in International Review of Administrative Sciences and Social Science and Medicine.

研究分野：Public accounting

キーワード：公会計 ガバナンス アカウンタビリティ 参加型予算編成 公立病院改革 スマートシティ 自治体
NPM

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

研究当初は NPM (新公共経営) 改革の代表的な取り組みである参加型予算編成に注目しており、いくつかの自治体へのパイロット調査をしてきたがほぼ同様の内容であることが分かったので、研究対象を転換することにした。

2. 研究目的

これまで海外ではあまり知られることのなかった、NPM 改革を NPM が生み出された西欧とは異なるコンテキストにある日本の公的組織がどのように受容・抵抗したのかを定性研究 (ケーススタディ) に基づき本助成研究では取り上げた。

より具体的には自治体の予算編成改革 (参加型予算編成)、自治体が設立するエージェンツとしての自治体立病院のガバナンスとアカウンタビリティ、また自治体が外部企業と取り組むスマートシティにおけるガバナンスとアカウンタビリティを取り上げてきた。

コロナ禍の調査中断が 2 年以上続いた最終年度には日本では特に重視されている SDGs をどのように考慮しているのかという点についても検討したいと願っていたが、当該研究調査は今後継続とせざるを得なかった。ただし海外に目を向けるよい機会を与えてくれることにもなった。

3. 研究方法

定性研究に基づく

4. 研究成果

(1) 日本の地方自治体における参加型予算編成 (PB) における日本というコンテキストからの影響

Participatory Budgeting and Local Government in a Vertical Society: A Japanese Story, *International Review of Administrative Sciences* (IRAS), Vol.85 (3), 490-505 (2019) (Shahzad Uddin, Yuji Mori, Pawan Adhikari) <https://doi.org/10.1177/0020852317721335>

公会計改革を含む NPM 改革が英国等で始まったのが 1980 年代で、日本で本格的に取り組まれたのが 1990 年代末から 2000 年代に入ってからとなっている。PB は海外では注目の高い研究テーマとなっているが、日本国内の研究では予算編成過程が公会計論はもちろん、財政学でも実証的、分析的に取り上げられることはほとんどない。このようなりサーチギャップを解消するために本研究に取り組んだ。

当研究のケースでは財政部局が予算編成における権力が市長を上回ること、予算編成において議会は「和」を重視していること、また市民の関心も薄いことを確認した。

海外において PB は注目が高いものの、日本でのケーススタディはほとんどなかった。本研究では PB という公会計技法がコンテキストにより、異なった展開を見せていることを明

らかにし、公会計技法の国際移転、国際比較研究の必要性という新しい論点を示すこととなった。

(2) 公立病院改革と自治体病院における受容と抵抗

Private Management and Governance Styles in a Japanese Public Hospital: A story of West meets East, *Social Science and Medicine* (SSM) Vol. 245, 112719,2020 (11 pages) (Shahzad Uddin, Yuji Mori, Khandakar Shahadat) <https://doi.org/10.1016/j.socscimed.2019.112719>

NPM 改革の一環として医療改革も進められている。少子高齢化が進み財政支出圧力が増大し、自治体の予算がひっ迫するにつれ、自治体を監督する総務省は予算へ多大な影響を及ぼすことから、自治体立病院の改革に 2008 年と 2015 年（そしてその後も）に着手した。

当研究のケースでは、改革として 2 つの病院の統合が行われたが財務状況は改善しなかった。それは高度医療に関心が高い病院長（医師）による抵抗があったためである。この解任が設置者だけでは不可能であった。つまり病院長の出身医局に解任の承認と後任の派遣依頼をせねばならなかった。医師確保が病院経営にとって最重要事項であり、これは 19 世紀ドイツ「軍隊」の組織制度を取り入れた医局がそのカギを依然として握っているためである。

本研究では高い医療水準でも知られる日本が非西洋的なコンテキストの上であり、そこでの NPM 的な医療改革を取り上げた。これにより西欧的なコンテキストで形成された NPM 改革は、異なるコンテキストにおいては意図せざる結果を生み出すことが明らかとなった。

(3) PPP としてのスマートシティにおける長期的関係性の重要性

Public-Private Partnership in a Smart City: a curious case in Japan

International Review of Administrative Sciences (IRAS), first published October21, 2021

(Daniela Pianezzi, Yuji Mori, Uddin Shahzad)

<https://doi.org/10.1177/00208523211051839>

山積する都市問題を IoT や AI などの情報技術を活用しながら行政と民間企業が連携しながら取り組む試みがスマートシティであり、先進国、途上国を問わず世界中の都市で、その構築が進められている。この官民連携パートナーシップ（PPP）は NPM の潮流の中にあり、その評価は多様である。日本の持つ要素技術への評価は高く、日本国政府はスーパーシティ構想もしくはデジタル田園都市国家構想に発展させようとしているものの、IMD 等での国際評価は高くない。

このように PPP は会計学、行政学、財務管理論等における重要な論点の一つを提供している。公会計論においてもその複雑なガバナンスとアカウンタビリティについて研究者から

注目されている。

国際的な研究の場において、日本の PPP、特にスマートシティに焦点を当てた研究はほとんど見られない。日本語の既存研究ではスマートシティの技術的側面に注目することが多く、社会科学における分析的な研究はほとんどない。またその形成過程や社会経済文化的なコンテキストが与える影響についての考察も不十分であった。そこで本研究は特異な歴史文化状況と広く認識される日本において、日本の有名巨大企業が参加する先進事例を取り上げて分析を行った。

欧米のスマートシティは「都市空間、公的領域の包括的な市場化」であるとみなされている。しかしそれに対して、この日本の当該ケースでは民間企業でも短期的な利益を追求せず、人的な交流等を通じてコンフリクトの顕在化を避けながら、行政を企業の成長のパートナーとして見なしていることが明らかとなった。つまり PPP の問題として理解されてきた問題点が、横浜市のケースでは日本の政治文化的な影響から民間企業と行政が密接に結びつき、利害対立が巧妙に回避されることで、ある意味「奇妙な」協調型の PPP を実現しているのである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Daniela Pianezzi, Yuji Mori, Shahzad Uddin	4. 巻 none
2. 論文標題 Public-Private Partnership in a Smart City: a curious case in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Review of Administrative Sciences	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/00208523211051839	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Uddin, Shahzad and Mori, Yuji and Shahadat, Khandakar	4. 巻 245
2. 論文標題 Private management and governance styles in a Japanese public hospital: A story of west meets east	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Social Science and Medicine	6. 最初と最後の頁 112719-112719
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.socscimed.2019.112719	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Uddin, Shahzad., Mori, Yuji. and Adhikari, Pawan	4. 巻 85 (3)
2. 論文標題 Participatory Budgeting and Local Government in a Vertical Society: A Japanese Story	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Review of Administrative Sciences.	6. 最初と最後の頁 490-505
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0020852317721335	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 1件/うち国際学会 7件）

1. 発表者名 森勇治
2. 発表標題 日本におけるスマートシティのガバナンスとアカウンタビリティ：日本型スマートシティの解明に向けて
3. 学会等名 地域活性学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森勇治
2. 発表標題 日本におけるスマートシティの本質とその可能性
3. 学会等名 経営行動研究学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 D.Pianezzi,Y.Mori,S.Uddin
2. 発表標題 SMART CITY AS A POLITY MODEL: INSIGHT INTO THE (MORAL) GOVERNANCE OF A JAPANESE CITY
3. 学会等名 Essex Business School Research away day conference
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 D.Pianezzi,Y.Mori,S.Uddin
2. 発表標題 Public -Private Partnership and smart city governance. A Japanese case of 'compromise'
3. 学会等名 Digital Workshop for special issue of Journal of Public Sector Budgeting, Accounting and Financial Management (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森勇治
2. 発表標題 スマートシティのガバナンスとアカウンタビリティ：日本型スマートシティとは
3. 学会等名 地域活性学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuji Mori, Shahzad Uddin, Khandakar Shahadat
2. 発表標題 Private management and governance styles in a Japanese public hospital: A story from west meets east
3. 学会等名 42nd Annual Congress, European Accounting Association (EAA) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shahzad Uddin, Yuji Mori, Khandakar Shahadat
2. 発表標題 Private management and governance styles in a Japanese public hospital: A story from west meets east
3. 学会等名 9th Asia-Pacific Interdisciplinary Research in Accounting (APIRA) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuji Mori, Shahzad Uddin, Khandakar Shahadat
2. 発表標題 Private Management and Governance Styles in a Japanese Public Hospital: A story from West meets East
3. 学会等名 Public Sector Conference of EIASM (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuji Mori, Shahzad Uddin, Khandakar Shahadat
2. 発表標題 Private Management and Governance Styles in a Japanese Public Hospital: A story of West meets East
3. 学会等名 14th Asia Pacific Management Accounting Association Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuji Mori, Shahzad Uddin, Khandakar Shahadat
2. 発表標題 NPM Style Reform on a Japanese Public Hospital: A story of West Meets East
3. 学会等名 3rd Comparative Asia Africa Governmental Accounting Association Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuji Mori, Shahzad Uddin, Khandakar Shahadat
2. 発表標題 Private Management and Governance Styles in a Japanese Public Hospital: A story of West meets East
3. 学会等名 European Accounting Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関